

平成 1 9 年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	市田柿登録銀行並びに遊休農地再生支援事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人みどりの風 事務局 21-3217
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ハード
総事業費	2,650,967 円 (うち支援金: 1,380,000 円)

事業内容

市田柿登録銀行事業の実施(市田柿樹園地の維持により、域内の市田柿加工生産量の拡大をモデル的に推進)

遊休農地モデル再生・整備(遊休農地活用した活性化モデルの試験・創出)

そばによる食品加工販売モデル事業の実施(そば・大豆に付加価値をつけた活性化モデルの試験)



【管理園柿園剪定作業】

自己評価(事業実施率) 【 A 】

事業効果

市田柿登録銀行事業が農家に理解され、農家事情により栽培放棄された柿園場を次の世代に引き継ぐ意識が発生した。その結果、144 a の相談をうけ、71 a を今年度管理できた。

大豆畑トラスト、契約栽培で 115a の遊休地を大豆畑に更新できた。

そばをそば粉以外でも販売できないかを検討し、付加価値をつけた試作に取り組んだ。栽培も 20a の遊休地をそばと菜種の同時蒔きで試験を行った。

【目標・ねらい】

- 作れない柿園場の栽培継続管理
- 遊休農地再生
- そば加工品販売による栽培面積の拡大

自己評価(目標達成率) 【 A 】

今後の取り組み

市田柿登録銀行事業は今後面積が増えていくと考えられるが、農業委員会・J.A と相談して新規就農者や面積拡大農家に部分的に管理園場を委託する方向も検討していく。

遊休農地モデル再生・整備事業については事業を拡大し、大豆・そばに限らず、果実や野菜の園場を拡大していく。遊休農地の一部を試験園場として数箇所つくり、当地にあった新品種・新技術の普及の一翼を担わせる。

食品加工販売モデル事業はいかに付加価値をつけ農家手取りを増やすかを重要課題とし、各分野の専門家の意見を取り入れた食品加工を研究していく。

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70~89%「C」50~69%「D」49%以下で示すこと。